

第 6 章

林 業

第 6 章 林 業

概況

府内の森林は、都市化が高度に進んだ大阪平野を北から北摂、金剛生駒及び和泉葛城の三山系により取り囲むような形で位置しており、林業の基盤としてだけでなく、天与のグリーンベルトとして、水源の涵養、山地災害の防止、保健休養等の多様な公益的機能を果たしている。

これを森林植物帯からみると、大部分は暖帯林で、一部には温帯林も見られる。しかし、現在の森林は大部分が「あかまつ」、「くぬぎ」、「こなら」等の二次林、あるいは「すぎ」、「ひのき」等の人工林である。なかでも、金剛、葛城山系では「すぎ」、「ひのき」が集中し、府内で最も集約的な林業が営まれている。

林家数

府内の林家数は2000年世界農林業センサス(平成12年2月1日現在)によると、1万540戸である。その内訳は農家林家数が1633戸(構成比15.5%)、非農家林家数が8907戸(同84.5%)で、非農家林家が圧倒的に多い。

林野面積

府内の林野面積は5万6914haで、前年より146ha減少した。

その内訳をみると、民有林野面積は5万5652haで前年より146ha減少したが、国有林野面積は1040ha、官行造林面積は222haで前年と変わらなかった。

大阪府総面積18万9276ha(平成11年10月1日現在)に占めるそれぞれの割合は、国有林野面積が0.5%、民有林野面積が29.4%、官行造林面積が0.1%である。

府内の林野面積の97.8%を占める民有林野のうち、立木地は5万2971haで前年より143ha減少し、民有林野面積の95.2%を占めている。その内訳は、人工林が2万6990ha(構成比51.0%)、天然林が2万5981ha(同49.0%)となっている。また、樹種別内訳は針葉

樹が3万8749ha(構成比73.2%)、広葉樹が1万4222ha(同26.8%)となっている。

民有林野面積を市町村別にみると、能勢町が7703ha(構成比13.8%)で最も多く、河内長野市7320ha(同13.2%)、高槻市4491ha(同8.1%)の順となり、この3市町で全体の35.1%を占めている。

林野蓄積量

府内の林野蓄積量は741万600m³で、その内訳をみると、国有林野蓄積量は17万6000m³で前年と変わらなかった。民有林野蓄積量は722万3000m³で前年より15万m³(2.1%)増加したが、官行造林蓄積量は1万1600m³で前年と変わらなかった。民有林野蓄積量のうち人工林は450万6000m³(構成比62.4%)、天然林は271万7000m³(同37.6%)である。また、樹種別内訳は針葉樹が637万m³(構成比88.2%)、広葉樹が85万3000m³(同11.8%)である。

民有林野蓄積量を市町村別にみると、河内長野市が123万7000m³(構成比17.1%)で最も多く、以下、能勢町76万6000m³(同10.6%)、高槻市59万1000m³(同8.2%)の順となり、この3市町で全体の35.9%を占めている。

苗木生産量等

山行造林用苗木の生産量は18万4000本で、前年より3万2000本(8.5%)減少した。樹木別にみると、「ひのき」が16万4000本(構成比89.1%)で最も多く、以下、「くろまつ」が1万3000本(同7.1%)、「あかまつ」が4000本(同2.2%)となっている。

大阪府内の林産物素材の生産量は26000m³で、前年と変わらなかった。林産物素材の入荷量(府内生産量を含む)は15万m³である。

市町村別森林資源面積（民有林）（平成13.3.31）

